

(仮称)串間南部風力発電所 環境影響評価方法書

住民説明会資料

令和3年2月
有限会社ウィンディ

1. 会社概要

2. 環境影響評価方法書の手続きについて
3. 対象事業内容
4. 対象事業実施区域及びその周辺の概要
5. 環境影響評価の項目及び調査・予測・評価の手法
6. 方法書の縦覧場所・意見書の提出について

会社概要①

(2021年1月31日現在)

会社名	有限会社ウィンディ
代表者	代表取締役 南 優奈
創業年	2000年12月
資本金	3,900万円
所在地	福岡県北九州市八幡東区中尾1丁目13-21
従業員数	10名
会社紹介	弊社では地球温暖化防止及び自然環境保全のため、環境に負荷を与えない再生可能エネルギーの普及により自然との共生社会を構築することを企業理念としています。長年にわたる風況精査や風況シミュレーションによる解析、現地調査、コンサルティング業務から得たノウハウと技術を生かし陸上及び洋上の風力発電所を開発し電気事業者への売電事業を展開します。
事業内容	風力発電事業及びコンサルタント ・事業適地調査、プロジェクト開発 ・風況精査(タワー及びライダー)、風況解析 ・地形調査、運搬調査、送電線立地調査 ・風車規模及び機種を選定、海外製風車の導入代行 ・土地取得交渉、地元住民の意識調査、住民説明会の開催 ・電力会社との系統連系接続手続き ・関係行政との各種許認可手続き ・九州大学との共同研究 など

会社概要②

【実績】

2001年10月	北九州市響灘地区における風力発電事業コンサルティング
2003年10月	(株)西原商事様へBergey XL1(1kW)風車7機導入
2005年12月	下関市豊北町特牛における風力発電事業コンサルティング
2006年 8月	下関市豊浦町犬鳴峠における風力発電事業コンサルティング
2006年10月	九州共立大学環境サイエンス学科ビオトープ用風力・太陽光ハイブリッド型独立電源システムの導入
2008年 7月	鹿児島県いちき串木野市における風力発電事業コンサルティング
2009年11月	下関市豊浦町神田大久保における風力発電事業コンサルティング
2014年 5月	宮崎県串間市、熊本県山都町、大分県日田市、北九州市脇田、宮崎県五ヶ瀬、山口県特牛における風力発電事業コンサルティング
2017年 3月	大分県日田市・熊本県山都町における自社での風力発電事業開始
2017年5月	長崎県鷹島町における風力発電事業コンサルティング
2017年11月	北九州市若松区における洋上風力発電事業コンサルティング
2021年10月	大分県日田市・熊本県山都町における風力発電所建設工事着工予定

1. 会社概要

2. 環境影響評価方法書の手続きについて

3. 対象事業内容

4. 対象事業実施区域及びその周辺の概要

5. 環境影響評価の項目及び調査・予測・評価の手法

6. 方法書の縦覧場所・意見書の提出について

環境影響評価の手続きについて①

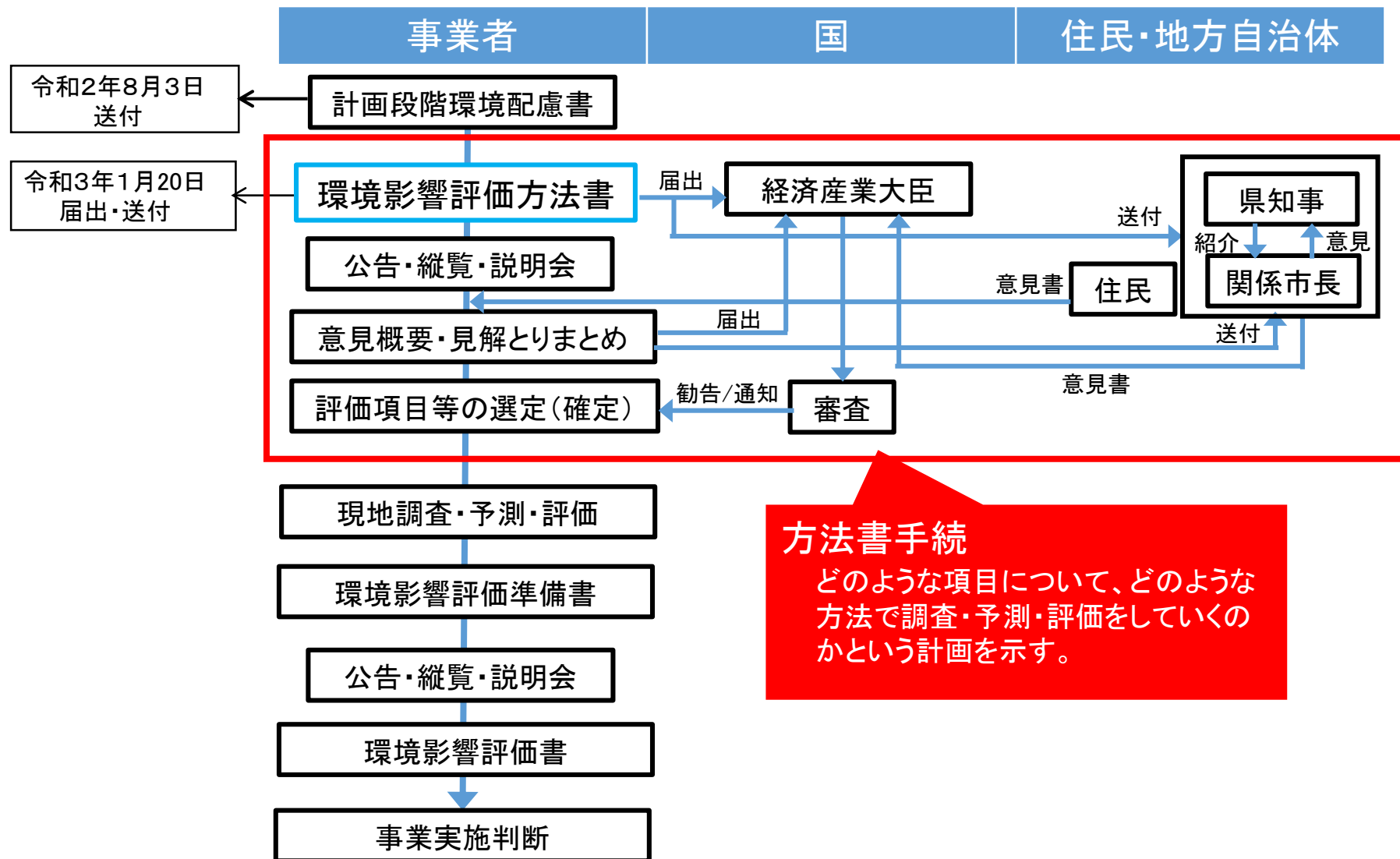
環境影響評価(環境アセスメント)とは…

開発事業の実施に当たって、その事業が環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ事業者が環境影響の調査・予測・評価を行い、その結果を公表して、住民の方々、地方公共団体等から意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点からより良い事業計画を作り上げていこうという制度です。

環境影響評価の手続きについて②

【環境影響評価の手続き】

環境影響評価における今回の方法書段階は、以下の赤枠のとおり



説明項目

1. 会社概要
2. 環境影響評価方法書の手続きについて
3. 対象事業内容
4. 対象事業実施区域及びその周辺の概要
5. 環境影響評価の項目及び調査・予測・評価の手法
6. 方法書の縦覧場所・意見書の提出について

対象事業の内容

■対象事業の名称：
(仮称)串間南部風力発電所

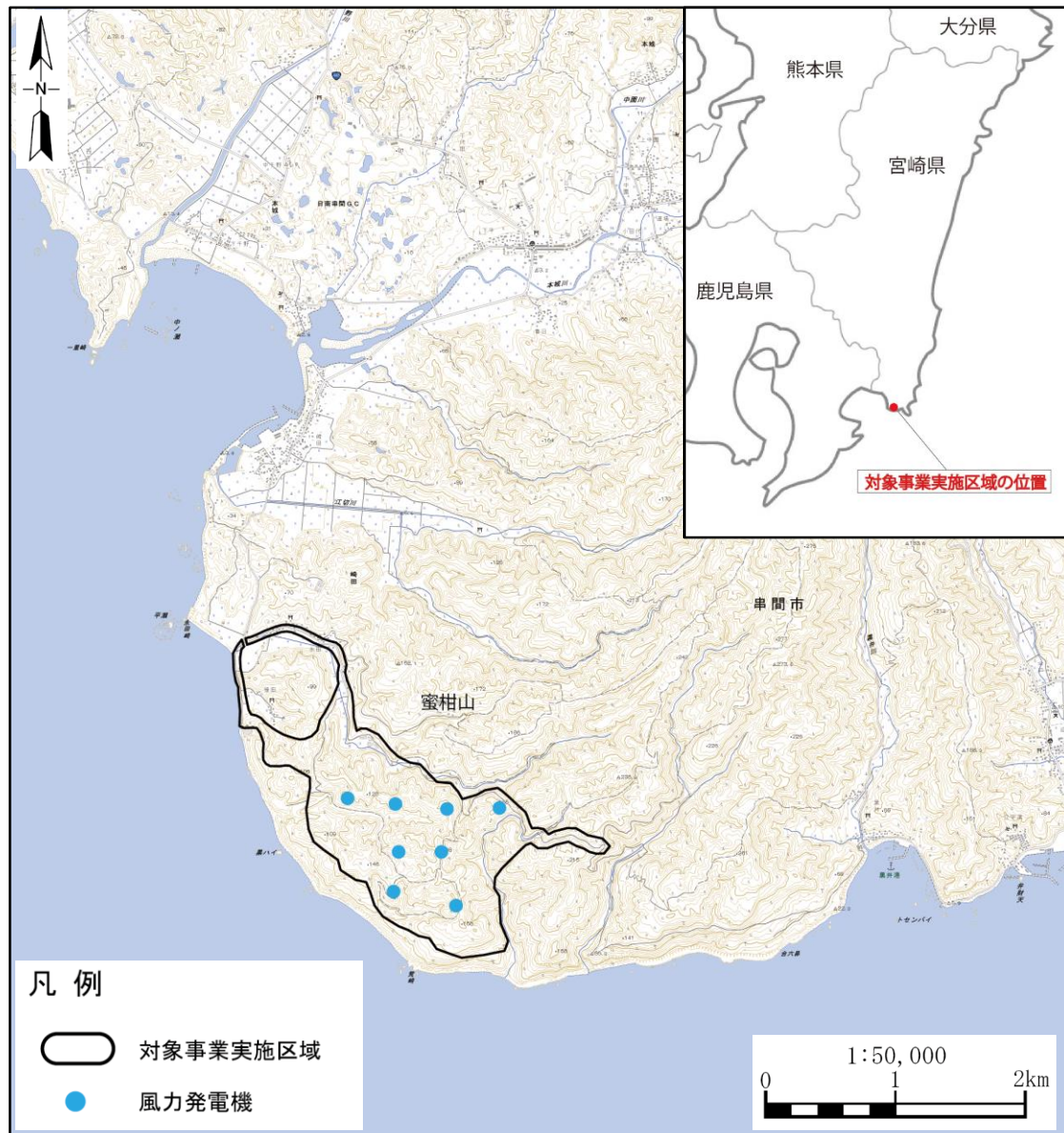
■発電所の原動力の種類：
風力(陸上)

■出力：
最大21,000kW
(単機出力:2,500～3,000kW)

■基数：
6～8基を想定

■位置：
宮崎県串間市大字崎田
(宮崎県串間市にある蜜柑山の
南にある山地)

■対象事業実施区域の面積
約223ha



※風力発電機の配置は現時点での計画であり、今後変更の可能性がある。

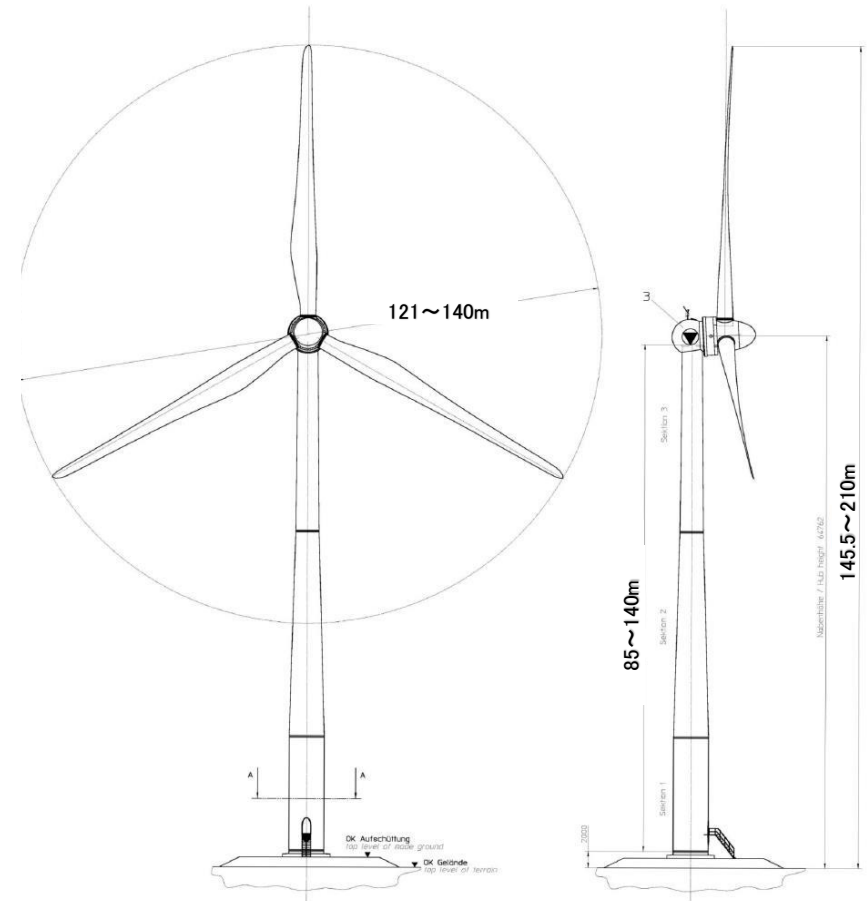
風力発電施設の概要

■風力発電施設の概要

項 目	諸 元
定格出力 (定格運転時の出力)	2,500～3,000kW
ブレード枚数	3枚
ローター直径 (ブレードの回転直径)	121～140m
ハブ高さ (ブレードの中心の高さ)	85～140m
ブレード上端	145.5～210m

※現時点での想定です。

■風力発電機外形図(予定)



※現時点での想定です。

工事に関する事項

■工事概要

風力発電事業における主要な工事は、以下のとおりである。

- ・土木工事：機材搬入道路工事及び風力発電機組立ヤード造成工事、基礎工事他
- ・据付工事：風力発電機輸送、組立・据付工事
- ・電気工事：連系変電所工事、電線路工事他

■工事期間及び工程

- ・工事期間は、着工から営業運転開始まで約21か月を予定
- ・現時点では、工事着工は令和6年を予定
- ・運転開始時期は未定

工事種別／月数	3	6	9	12	15	18	21
土木工事							
据付工事							
電気工事							
試運転調整							
営業運転開始							

※現時点での想定です。

交通に関する事項

風力発電機等の大型部品の搬入ルートは現時点で以下の2ルートを計画している。

- 崎田漁港から市道崎田港線、市道吾社百田線を経由し、海岸沿いの既設道路または永田の既設道路を通して既設林道を利用したのち風力発電機を設置する尾根部まで新設道路を敷設するルート
- 都井漁港から県道454号及び国448号を経由して、串間ウインドヒルが2020年運転開始した串間風力発電所の管理用道路を経由し、既設林道を利用したのち風力発電機を設置する尾根部まで新設道路を敷設するルート

また工事関係車両については、現時点では上記の2ルートを経由してアクセスする計画である。

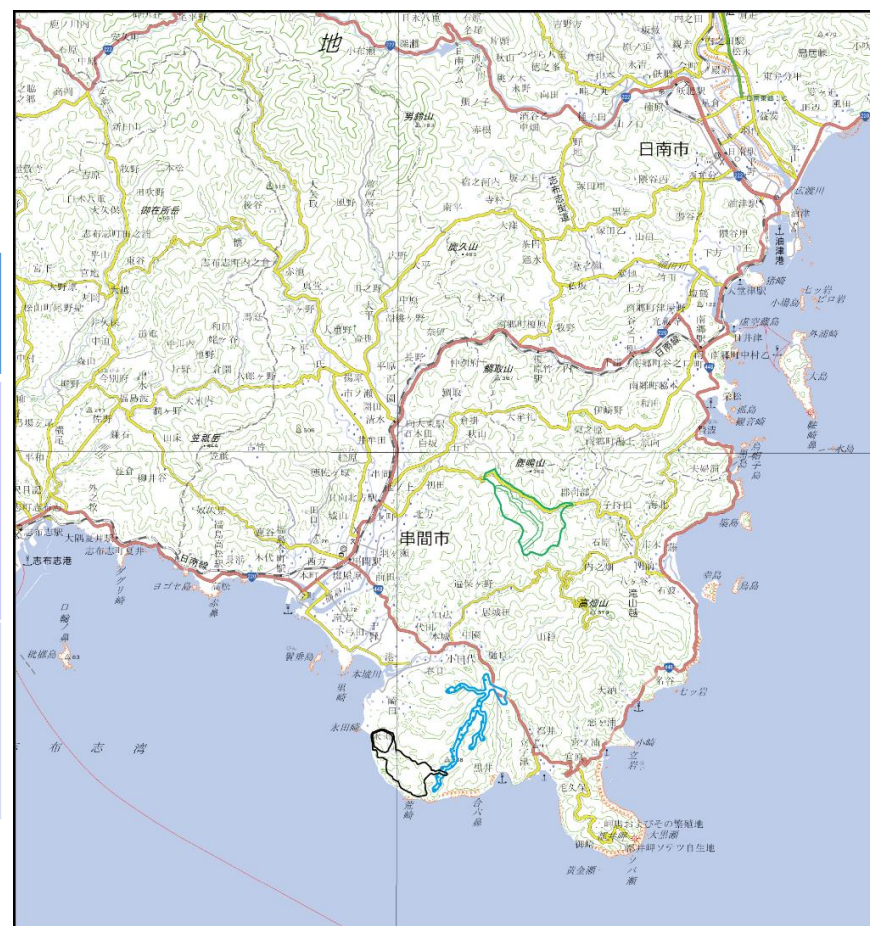


その他の事項

■ 本事業計画地周辺で稼働または計画中的 その他の風力発電事業

事業名 (事業者名)	事業概要
串間風力発電所 (串間ウインドヒル 株式会社)	発電出力: 64,800kW (定格出力 2,850kWの風力発電機を23基設置し、総出力が64,800kWを超えないよう制御) 運転開始: 2020年10月
(仮称) 串間いちき 風力発電事業 (株式会社イメージワン)	発電出力: 最大30,000kW 単機出力: 4,200kW × 最大7基 計画中(配慮書)

〔「発電所の概要」(串間ウインドヒル株式会社HP、閲覧: 令和2年11月)
「環境アセスメントデータベースEADAS」(環境省HP、閲覧: 令和2年11月)より作成〕



- 凡 例
- 対象事業実施区域
 - 他事業: 串間風力発電所 (運転中)
 - 他事業: (仮称) 串間いちき風力発電事業 (計画中)

1:200,000

0 5 10km

〔「環境アセスメントデータベースEADAS」(環境省HP、閲覧: 令和2年11月)より作成〕

説明項目

1. 会社概要
2. 環境影響評価方法書の手続きについて
3. 対象事業内容
4. 対象事業実施区域及びその周辺の概要
5. 環境影響評価の項目及び調査・予測・評価の手法
6. 方法書の縦覧場所・意見書の提出について

地域概況(主な地域特性①)

環境要素の 区 分	主な地域特性
大気環境	・対象事業実施区域の最寄りの気象観測所である串間地域気象観測所における令和元年の年間平均気温は18.5℃、年間降水量は2,508.5mm、年間平均風速は2.2m/s、日照時間は2,010.2時間、年間最多風向は北東となっている。 ・大気質は対象事業実施区域の周囲の3地点で測定されており、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質及びダイオキシン類は環境基準を達成しているが、光化学オキシダントは環境基準を達成していない。 ・環境騒音及び自動車騒音について、対象事業実施区域及びその周囲において公表された測定結果はない。 ・環境振動及び道路交通振動について、対象事業実施区域及びその周囲において公表された測定結果はない。
水環境	・対象事業実施区域及びその周囲には、二級河川である本城川等、普通河川である永田川、黒井川等が流れている。 ・対象事業実施区域及びその周囲における河川の水質の状況について、令和元年度は、本城川(春日橋)において生活環境項目の水質測定が行われており、すべての地点で環境基準値を超過した項目はない。なお、対象事業実施区域及びその周囲における健康項目及びダイオキシン類については、公表された測定結果はない。
その他の 環境	・対象事業実施区域の土壌は主に残積性未熟土壌、淡色黒ボク土壌、褐色森林土壌からなっている。 ・対象事業実施区域の地形は主に小起伏山地からなっている。 ・対象事業実施区域の表層地質は主に砂岩・砂岩優勢な互層が分布している。 ・重要な地形・地質として、対象事業実施区域及びその周囲において、「本城川河口砂嘴」、「江切川河口砂嘴」等、5箇所が選定されている。

地域概況(主な地域特性②)

環境要素の 区 分	主な地域特性
動 物 植 物 生態系	・動物の重要な種は、哺乳類6種、鳥類26種、爬虫類1種、両生類5種、昆虫類29種、陸産貝類14種、魚類2種及び底生動物12種の合計95種が確認されている。 ・植物の重要な種は、53科88種が確認されている。 ・対象事業実施区域及びその周囲の植生は、広い範囲で「植林地、耕作地植生」のスギ・ヒノキ・サウラ植林が広がっており、対象事業実施区域内付近は尾根伝いに「ヤブツバキクラス域代償植生」のシイ・カシ二次林が分布している。対象事業実施区域の西側から南側には「ヤブツバキクラス域代償植生」のタブノキーヤブニッケイ二次林が、沿岸寄りには「ヤブツバキクラス域自然植生」のマサキートベラ群集が分布している。 ・対象事業実施区域及びその周囲で確認された重要な植物群落については、「本城川河口の塩沼地植物群落」と植生自然度10の「ヨシクラス」、「塩沼地植生」、「砂丘植生」、植生自然度9の「ミズバイースダジイ群集」、「ムサシアブミータブノキ群集」、「マサキートベラ群集」が分布している。 ・自然環境のまとまりの場として、「鳥獣保護区(一里崎鳥獣保護区、本城鳥獣保護区)」、「自然公園(日南海岸国定公園)」、「本城川河口の塩沼地植物群落」及び「保安林」等が分布している。
景 観 人と自然と の触れ合い の活動の場	・主要な眺望点として、「串間市総合運動公園」、「小松ヶ丘広場」等の10地点が挙げられる。 ・対象事業実施区域及びその周囲における自然景観資源として、「砂嘴(本城川河口砂嘴、江切川河口砂嘴)」、「陸けい砂州(赤鼻砂州)」等の11地点が挙げられる。 ・人と自然との触れ合いの活動の場として、「本城干潟」の1地点が挙げられる。
廃棄物等	・平成30年度において、宮崎県内では産業廃棄物が2,323千トン発生し、このうち143千トンが最終処分されている。 ・対象事業実施区域から50kmの範囲に、産業廃棄物の中間処理施設が82か所、最終処分場が11か所存在している。
放射線の量	・対象事業実施区域及びその周囲においては、令和2年度末現在、空間放射線量の測定は行われていないが、対象事業実施区域から西へ約37km離れた鹿屋市大隅地域振興局、北西へ約42km離れた都城市都城保健所及び北へ約51km離れた宮崎市県衛生環境研究所で測定が実施されている。令和元年度の空間放射線量率の年平均値は各々0.034、0.042、0.034 μ Sv/h となっている。

地域概況(学校、病院、住居等)

■ 対象事業実施区域及びその周囲における学校、病院等及び住宅の状況

調査項目

調査期間

学校、 医療機関、 福祉施設

対象事業実施区域及びその周囲における風力発電機設置予定位置から最寄りの学校、医療機関、福祉施設までの距離は以下のとおり。

○学校

・都井小学校: 東約4.4km

○医療機関

・吾社クリニック: 北約4.2km

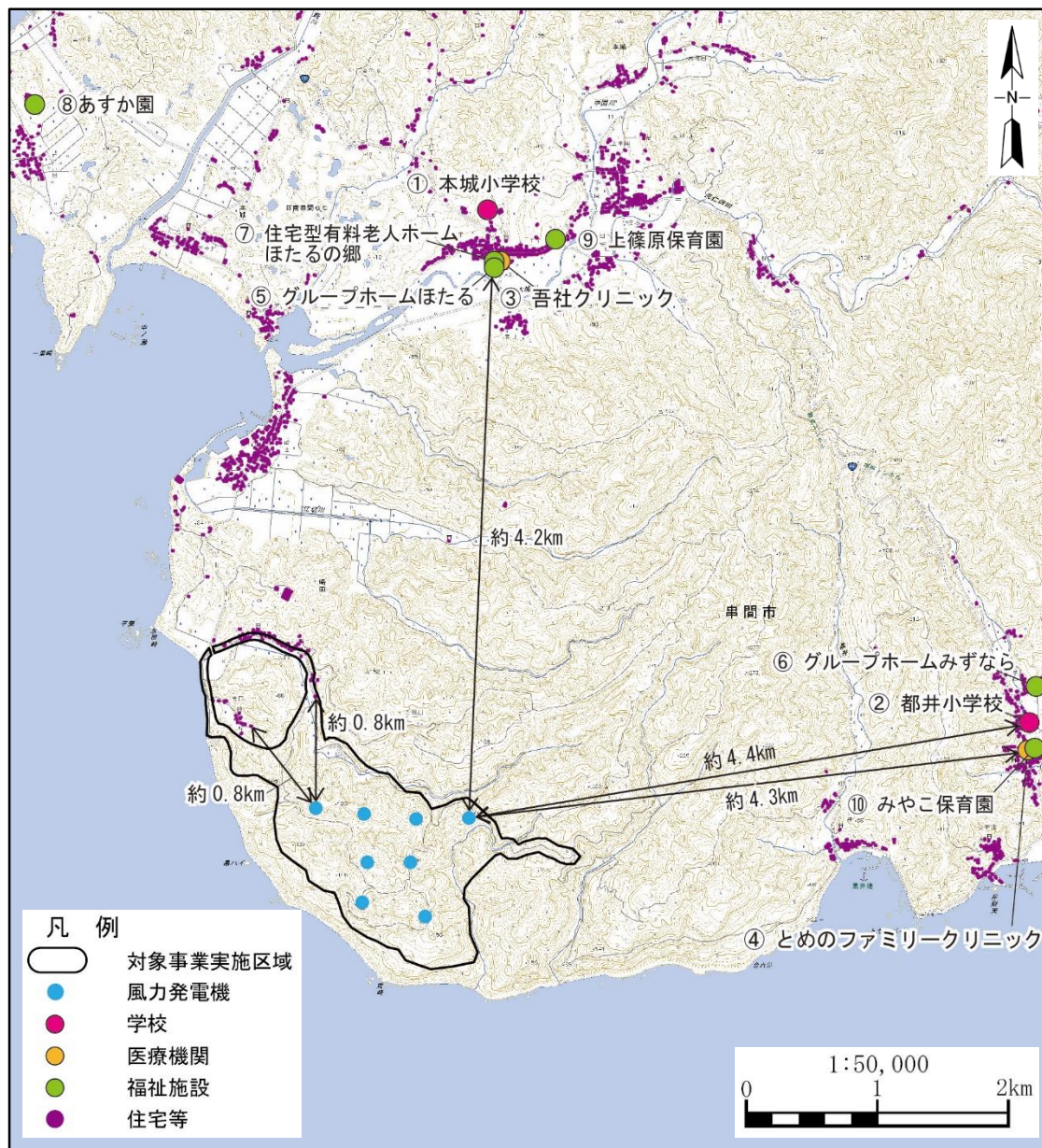
・とめのファミリークリニック:
東約4.3km

○福祉施設

・グループホームほたる:
北約4.2km

住宅

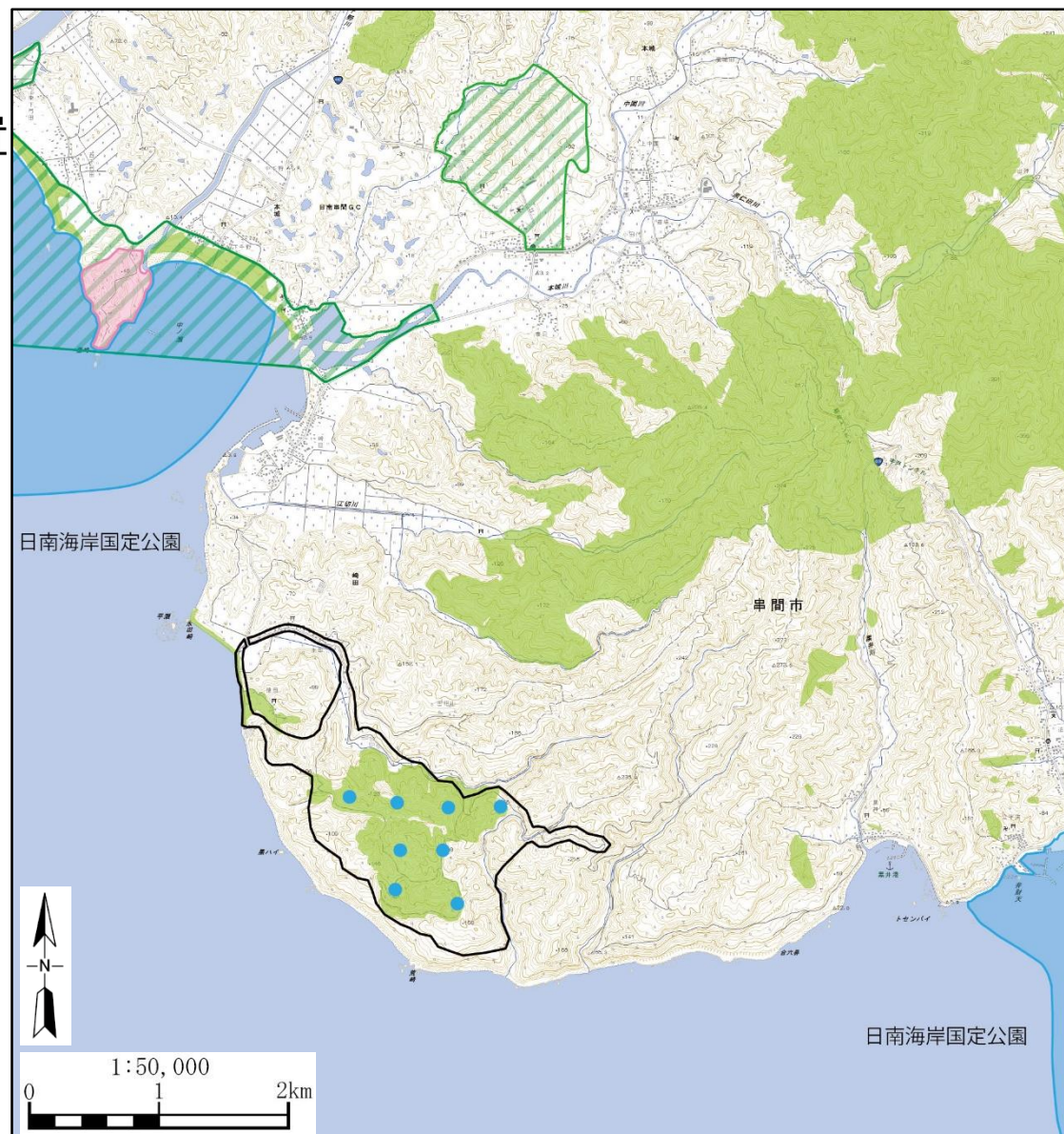
風力発電機設置予定位置から最寄りの住居までの距離は約0.8kmとなっている。



地域概況(自然関係法令等①)

■ 対象事業実施区域及びその周囲における自然公園・鳥獣保護区の位置

凡 例



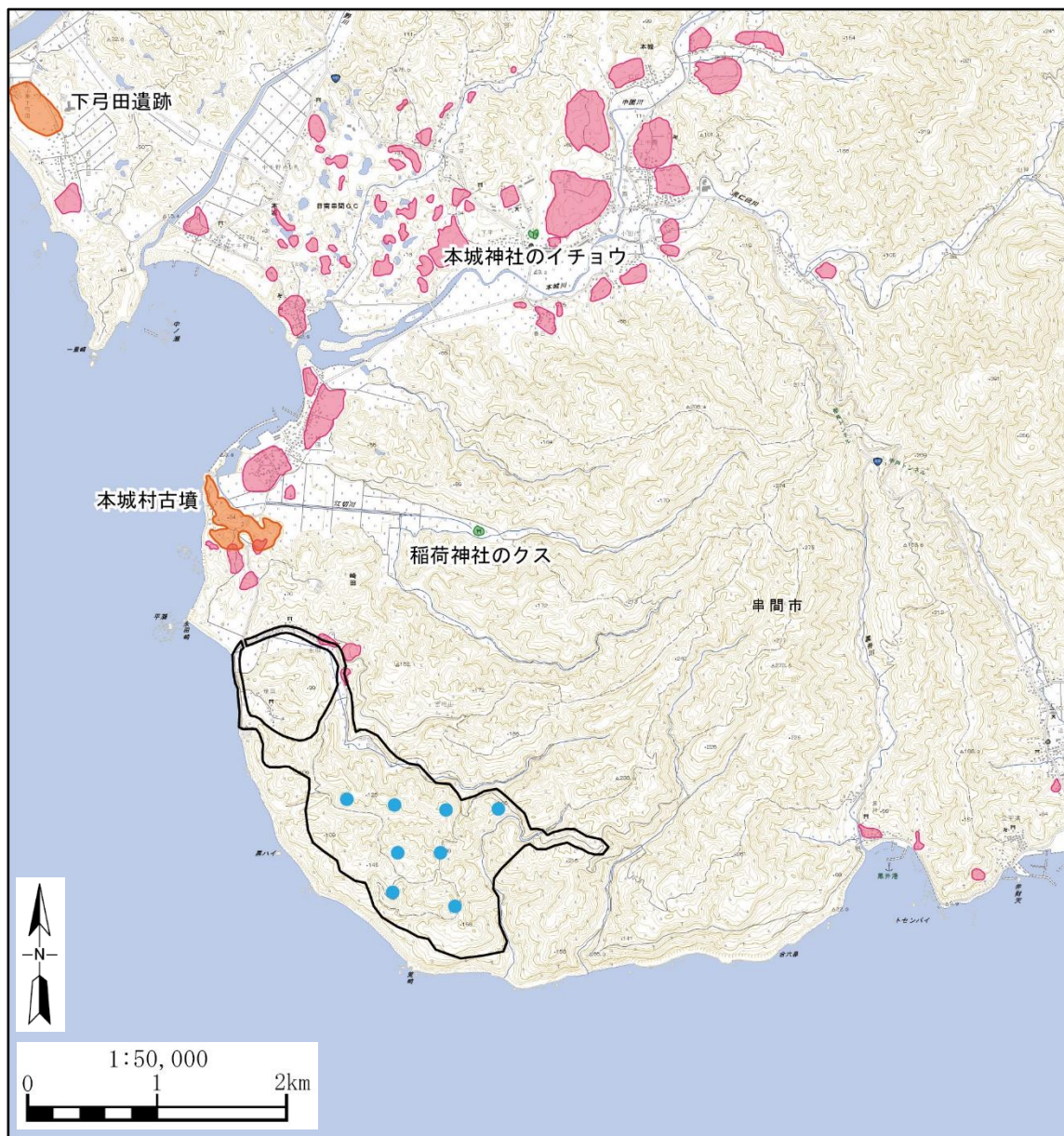
「国土数値情報(自然公園地域データ、鳥獣保護区データ)」等の文献調査の結果より作成

地域概況(自然関係法令等②)

■対象事業実施区域及びその周囲における文化財の位置

凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機
-  史跡
-  天然記念物
-  埋蔵文化財包蔵地



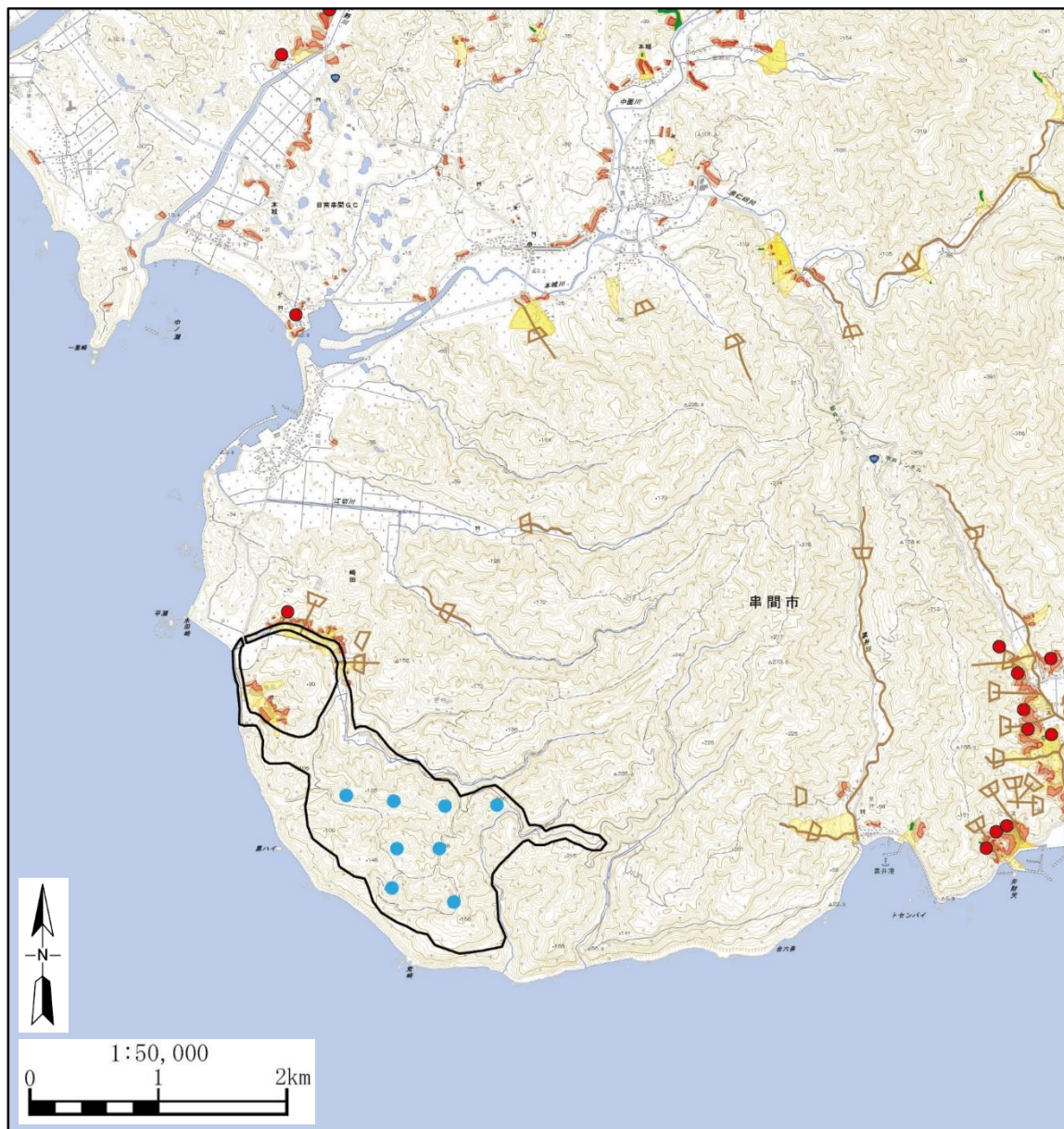
「串間市遺跡詳細分布調査報告書(Ⅰ)」等の文献調査の結果より作成

地域概況(自然関係法令等③)

■対象事業実施区域及びその周囲における国土防災関係地域の位置

凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機
-  砂防指定地
-  急傾斜地崩壊危険区域
-  急傾斜地の崩壊（土砂災害特別警戒区域）
-  急傾斜地の崩壊（土砂災害警戒区域）
-  土石流（土砂災害特別警戒区域）
-  土石流（土砂災害警戒区域）

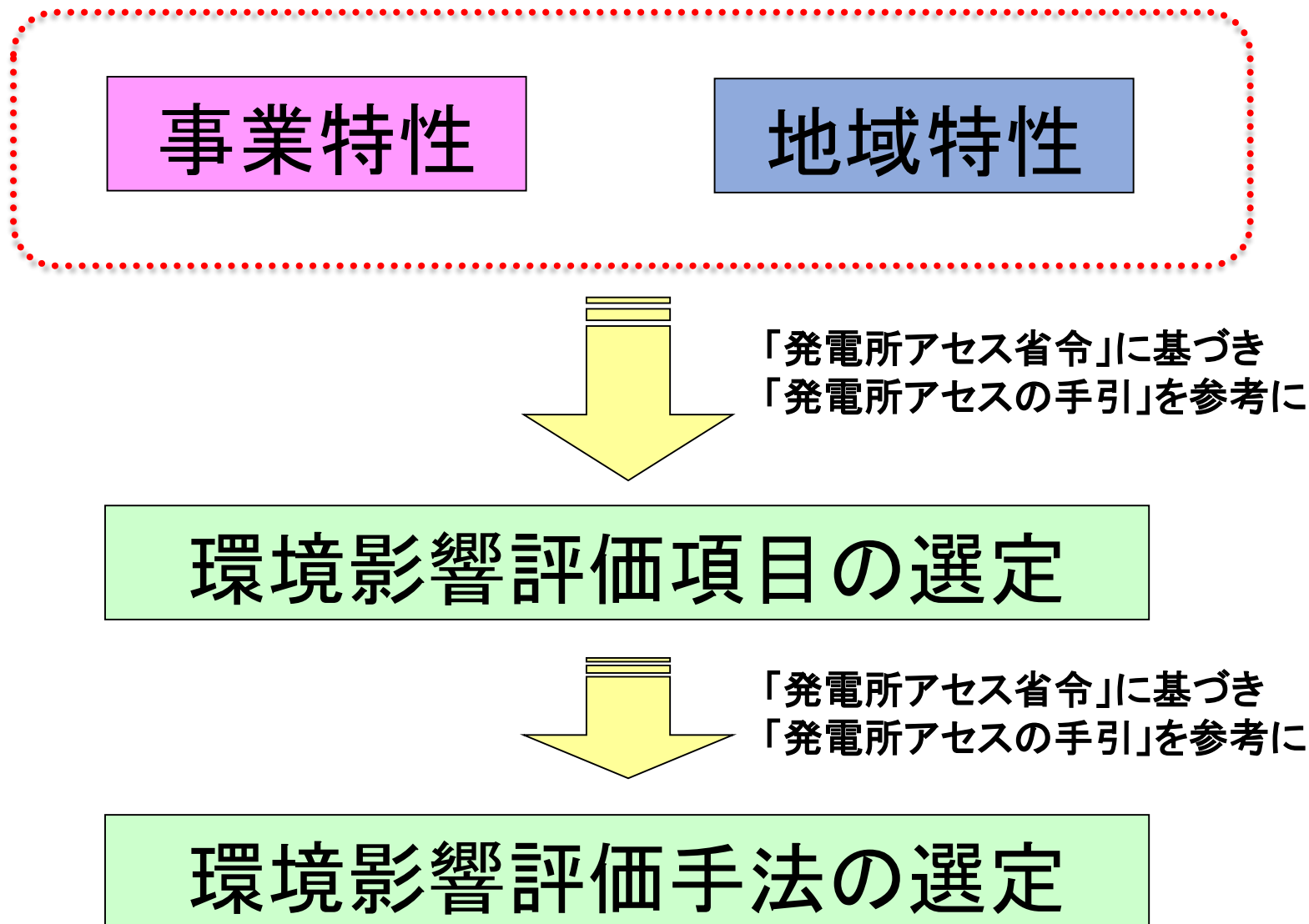


「国土数値情報(土砂災害警戒区域データ)」等の文献調査の結果より作成

説明項目

1. 会社概要
2. 環境影響評価方法書の手続きについて
3. 対象事業内容
4. 対象事業実施区域及びその周辺の概要
5. 環境影響評価の項目及び調査・予測・評価の手法
6. 方法書の縦覧場所・意見書の提出について

環境影響評価項目と手法(選定方法)



環境影響評価項目の選定

環境要素の区分 影響要因の区分					工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
					搬出入 資材等の	工事用 稼働	建設機械の 一時的な影響 施工による 造成等の	施設 の存在 地形 改変及び	施設の稼働
大気環境	騒音	騒音	振動	振動	○	○			○
	振動	振動	騒音	騒音	○				
水環境	水質	水質	底質	底質			○		
	底質	底質	水質	水質					
その他の環境	地形及び地質	地形及び地質	その他	その他					
	その他	その他	風車	風車					○
動物	重要な種及び注目すべき生息地（海域に生息するものを除く。）	重要な種及び注目すべき生息地（海域に生息するものを除く。）					○	○	
	海域に生息する動物	海域に生息する動物					○		
植物	重要な種及び重要な群落（海域に生育するものを除く。）	重要な種及び重要な群落（海域に生育するものを除く。）					○	○	
	海域に生育する植物	海域に生育する植物					○		
生態系	地域を特徴づける生態系	地域を特徴づける生態系					○	○	
	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観						○	
人と自然との 触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場							
	産業廃棄物	産業廃棄物					○		
廃棄物等	残土	残土					○		
	放射線の量	放射線の量							

■ は、「発電所アセス省令」の定める風力発電所の参考項目であることを示します。

○ は、環境影響評価の項目として選定する項目であることを示します。

調査・予測・評価の手法(大気環境①)

騒音、振動

◇工事用資材等の搬出入

【調査手法】

- ・文献その他資料調査、現地調査
→現在の道路交通騒音、振動の状況等の把握

○調査項目、調査期間

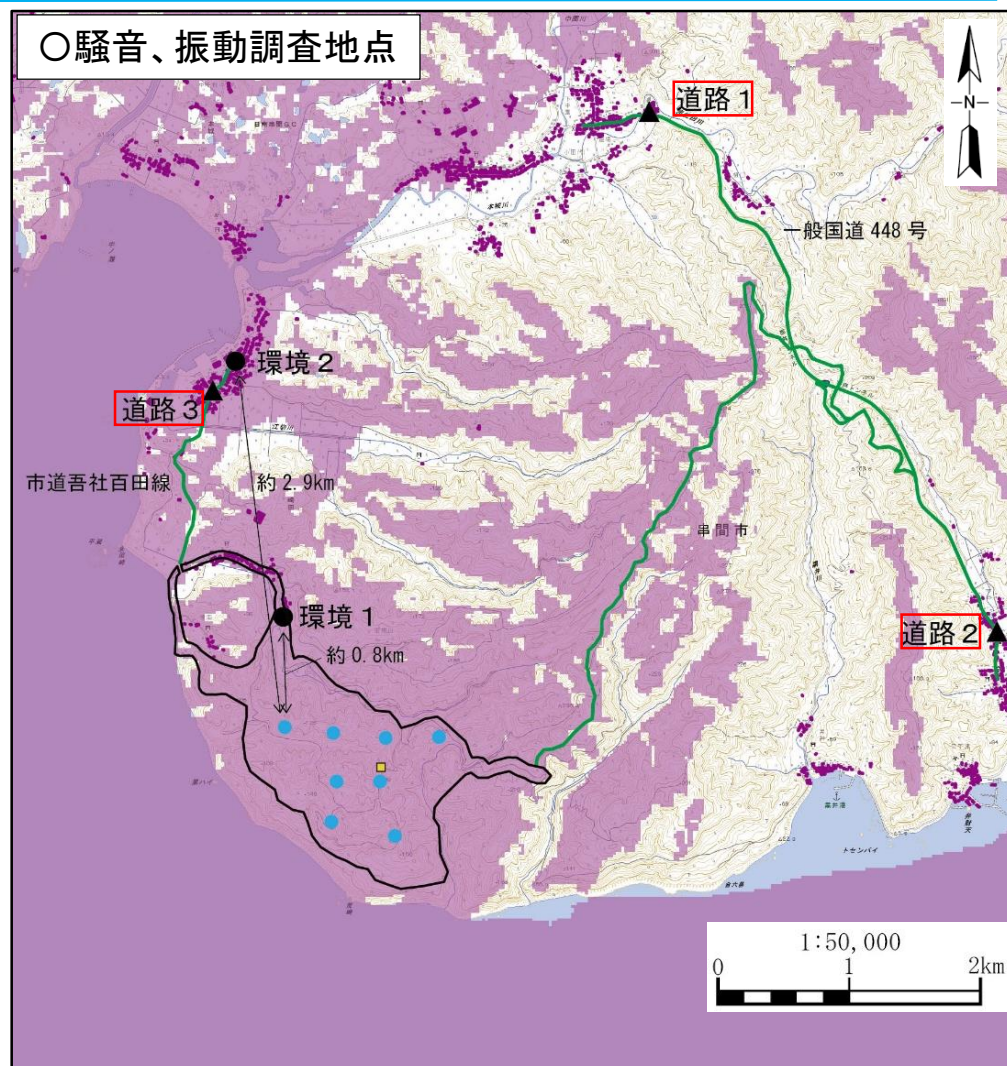
調査項目		調査期間
騒音	道路交通騒音の状況	平日、土曜日の昼間に各1回
	交通量	
	沿道の状況	上記の調査期間中に1回
	道路構造の状況	
振動	道路交通振動の状況	平日、土曜日の昼間に各1回
	交通量	
	地盤の状況	上記の調査期間中に1回
	道路構造の状況	

【予測手法】

- ・予測計算モデル、計算式等による予測
→工事用資材等の搬出入に係る騒音、振動レベル

【評価手法】

- ・実行可能な範囲内で回避・低減
- ・適正な環境保全についての配慮
- ・「騒音に係る環境基準について」との整合
- ・「振動規制法施行規則」に基づく道路交通振動の要請限度との整合



凡例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機
- 風況ポール
- 住居等
- 工事関係車両の走行ルート

【現地調査地点】

- ▲ 道路沿道（3地点）
・騒音、振動、交通量
- 周辺地域（2地点）
・騒音

調査・予測・評価の手法(大気環境②)

騒音

◇建設機械の稼働、施設の稼働

【調査手法】

- ・文献その他資料調査、現地調査
→現在の環境騒音の状況等の把握
- 調査項目、調査期間

調査項目	調査期間
建設機械の稼働に係る騒音の状況	平日、土曜日の昼間に各1回
施設の稼働に係る騒音の状況	2季、各72時間連続測定
地表面の状況	調査期間中に1回

【予測手法】

- ・予測計算モデル、音の伝搬理論式による予測
→建設機械の稼働、施設の稼働に係る騒音レベル

【評価手法】

- ・実行可能な範囲内で回避・低減
- ・適正な環境保全についての配慮
- ・「騒音に係る環境基準について」、「風力発電施設から発生する騒音に関する指針」との整合



騒音測定(例)



凡例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機
- 住居等
- 可視領域
- 工事関係車両の走行ルート
- 風況ポール

【現地調査地点】

- ▲ 道路沿道(3地点)
・騒音、振動、交通量
- 周辺地域(2地点)
・騒音

調査・予測・評価の手法(水環境)

■水質(水の濁り)

◇造成等の施工による一時的な影響

【調査手法】

- ・文献その他資料調査、現地調査
→水の濁り、流量及び、土壌の沈降特性の把握

○調査項目、調査期間

調査項目	調査期間
水質	平水時4季(各1回)、降雨時1回
土質	1回(対象事業実施区域内3ヶ所)

【予測手法】

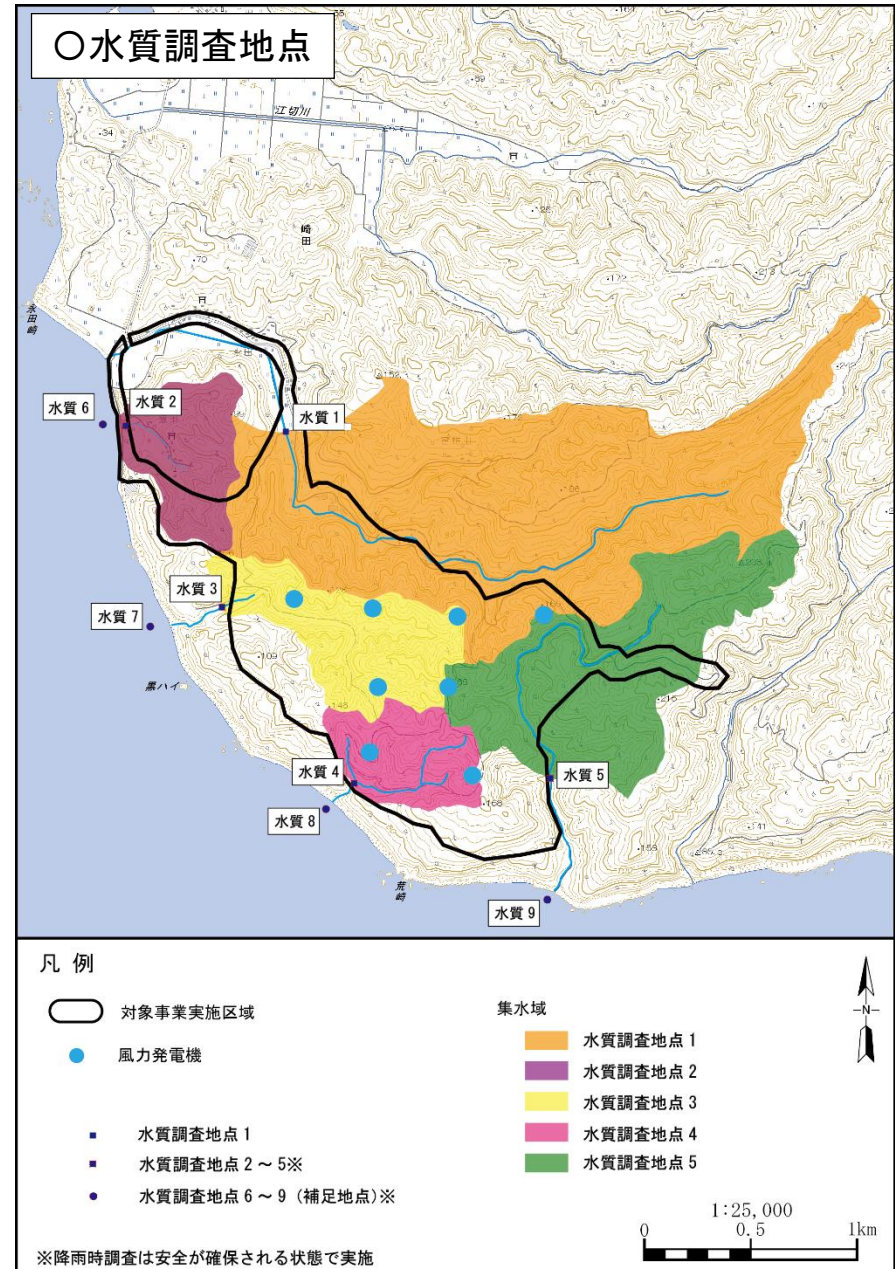
- ・計算式等による予測
→仮設沈砂池からの排水が沢又は河川等まで達するか否かを推定

【評価手法】

- ・実行可能な範囲内で回避・低減
- ・適正な環境保全についての配慮



流量測定(例)



調査・予測・評価の手法(その他の環境)

■風車の影

◇施設(風力発電機)の稼働

【調査手法】

- ・文献その他資料調査、現地調査
→土地利用、地形、住居の配置等の把握

○調査項目、調査期間

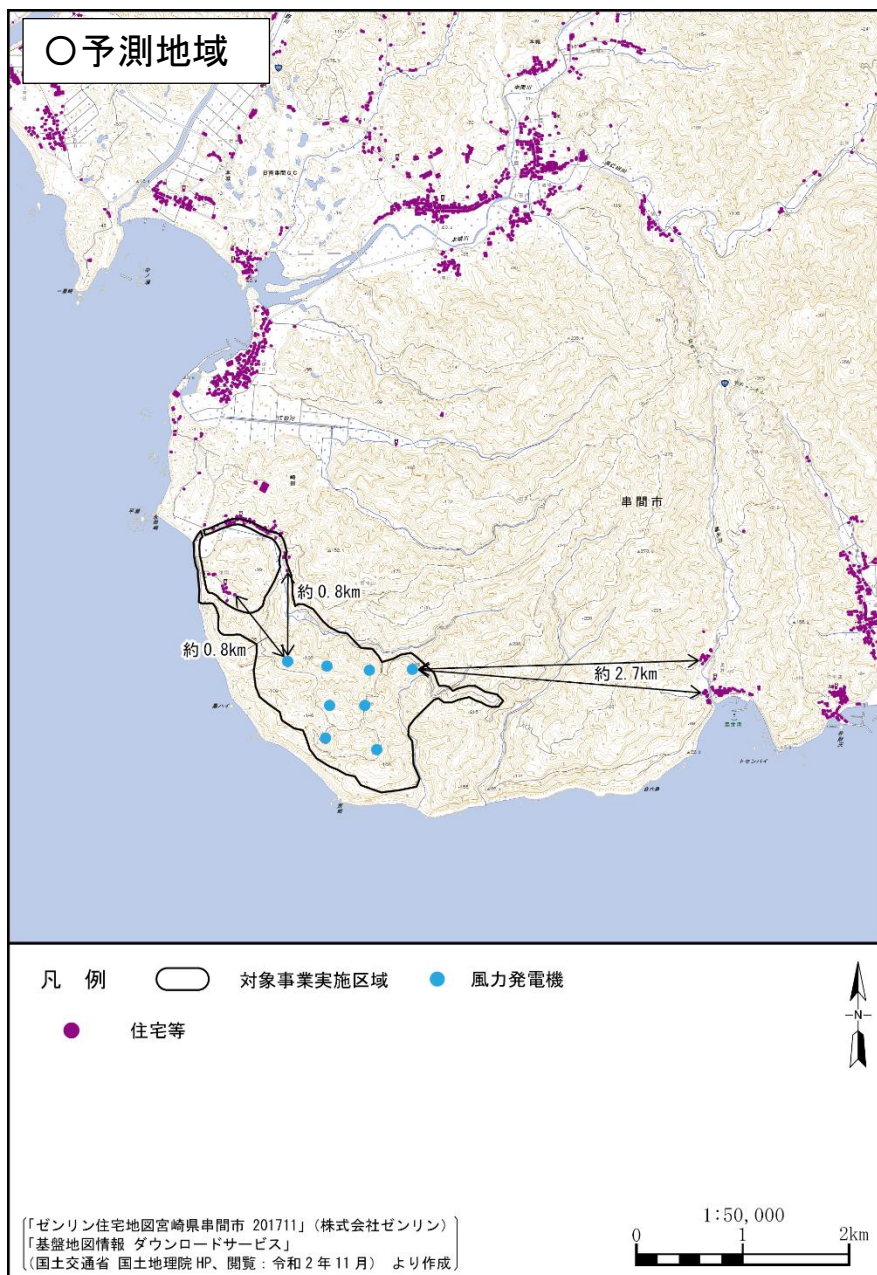
調査項目	調査期間
土地利用、地形、 住居の配置等	1 回

【予測手法】

- ・シミュレーションによる予測
→風車の影が生じる範囲、時間

【評価手法】

- ・実行可能な範囲内で回避・低減
- ・適正な環境保全についての配慮



調査・予測・評価の手法(陸生動物①)

■陸域に生息する動物 ◇造成等の施工、地形改変等、施設の稼働

【調査手法】

・文献その他資料調査、現地調査 →陸生動物の生息状況等の把握

○調査項目、調査期間

調査項目		調査期間
哺乳類 (コウモリ類以外)	フィールドサイン調査	春、夏、秋、冬の4季
	捕獲調査及び自動撮影調査	春、夏、秋の3季
コウモリ類	捕獲調査	7月下旬～9月の間で2回
	夜間踏査調査	春、夏、秋の3季
	音声モニタリング調査	春～秋(3月頃～11月頃連続測定)
一般鳥類	任意観察調査等	春、夏、秋、冬の4季
希少猛禽類	定点観察法	各月1回3日間程度(繁殖期は2年間調査)
渡り鳥	定点観察法	春季(3～5月)及び秋季(9～11月)
両生類・爬虫類	直接観察調査	春、夏、秋の3季
昆虫類	一般採集調査	春、夏、秋の3季
	トラップ法	
魚類	捕獲調査	春、夏の2季
底生動物	定性採集調査	春、夏の2季

※調査月については春(3～5月)、夏(6～8月)、秋(9～11月)、冬(12～2月)とする。

【予測手法】

・重要な種等の生息環境等の変化について推定 →生息への影響

・計算式等による予測 →鳥類の重要な種等の風力発電機への衝突確率、年間衝突数

【評価手法】

・実行可能な範囲内で回避・低減

・適正な環境保全についての配慮

調査・予測・評価の手法(陸生動物②)

【哺乳類、鳥類、昆虫類、爬虫類・両性類】



自動撮影調査(哺乳類)
(赤外線センサーカメラ)(例)

捕獲調査(哺乳類)
(シャーマントラップ)(例)



ライトトラップ(昆虫類)(例)

凡 例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機
- 哺乳類、鳥類、昆虫類、爬虫類・両性類調査ルート
- トラップ調査地点(哺乳類、昆虫類)



調査・予測・評価の手法(陸生動物③)

【コウモリ類】



音声モニタリング(バットディテクター)(例)

凡 例

- 対象事業実施区域
- 風力発電機
- コウモリ類調査地点(捕獲調査)
- ◎ コウモリ類調査地点(音声モニタリング)



調査・予測・評価の手法(陸生動物④)

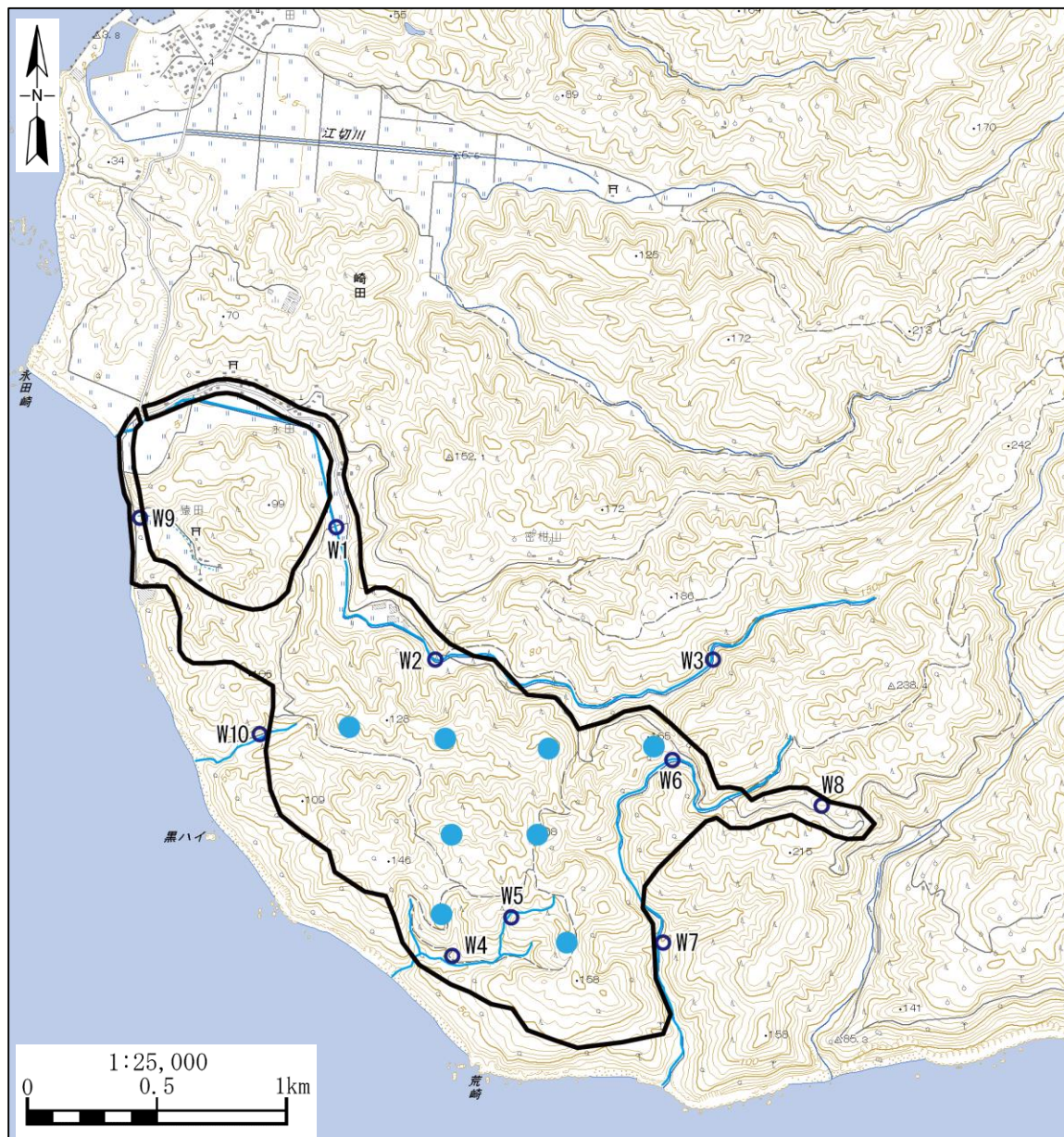
【魚類・底生動物】



定性採集調査(例)

凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機
-  魚類・底生動物調査地点



調査・予測・評価の手法(陸生動物⑤)

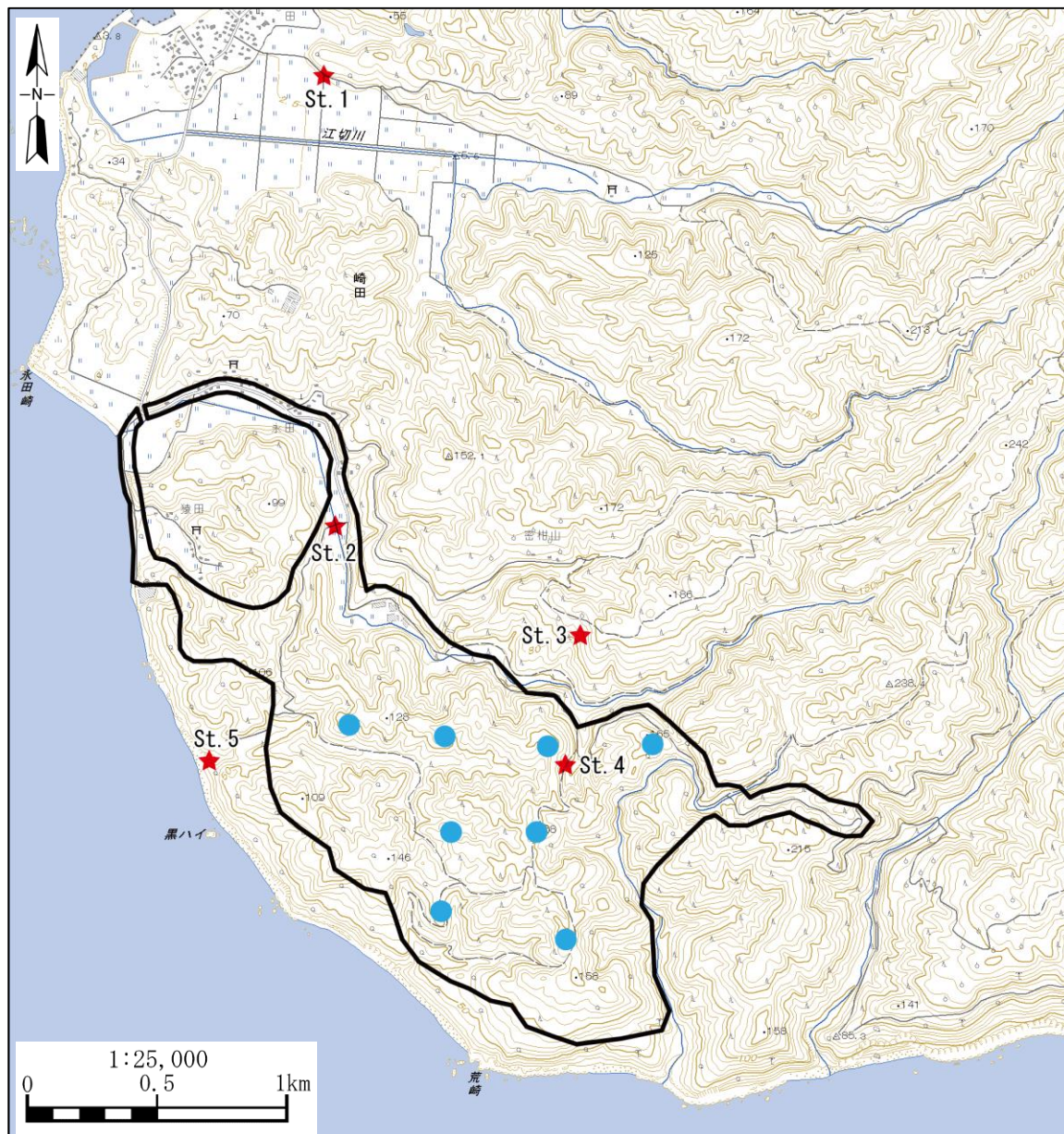
【希少猛禽類】



定点観察法(例)

凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機
-  猛禽類調査地点



調査・予測・評価の手法(陸生動物⑥)

【渡り鳥】



定点観察法(例)

凡 例

-  対象事業実施区域
-  風力発電機
-  渡り鳥調査地点



調査・予測・評価の手法(海生動物)

■海域に生息する動物

◇造成等の施工(工事で発生する濁水の影響)

【調査手法】

- ・文献その他資料調査、現地調査
→海生動物の生息状況等の把握

○調査項目、調査期間

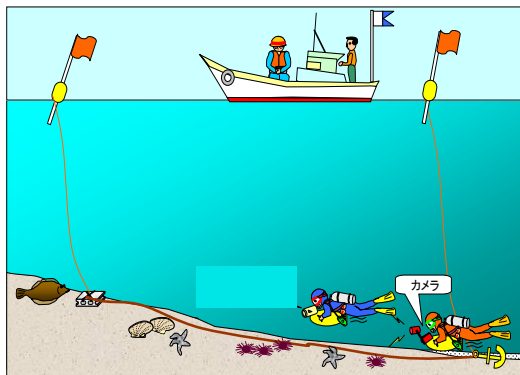
調査項目		調査期間
海生動物	目視観察 (潜水土)	春、夏、秋、冬の4季 に各1回

【予測手法】

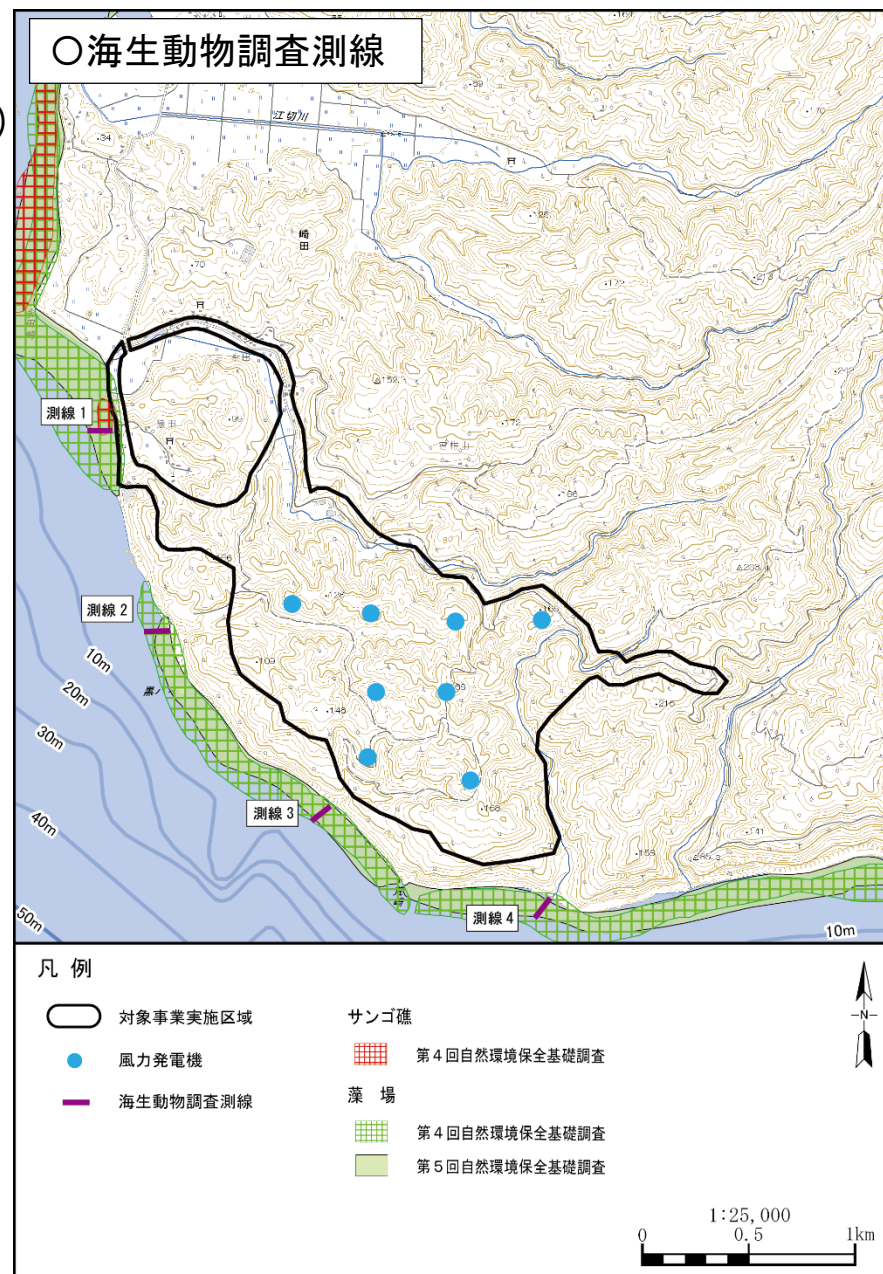
- ・重要な種等の生息環境等の変化について推定
→生息への影響

【評価手法】

- ・実行可能な範囲内で回避・低減
- ・適正な環境保全についての配慮



海域調査イメージ図



調査・予測・評価の手法(陸生植物)

■陸域に生育する植物

◇造成等の施工、地形改変等

【調査手法】

- ・文献その他資料調査、現地調査
→陸生植物の生育状況等の把握

○調査項目、調査期間

調査項目		調査期間
植物相	目視観察調査	春、夏、秋、冬の4季
植生	ブラウン-ブランケの植物社会学的植生調査法等	夏、秋の2季

※調査月については春(3～5月)、夏(6～8月)、秋(9～11月)、冬(12～2月)とする。

【予測手法】

- ・重要な種等の生育環境等の変化について推定
→生育への影響

【評価手法】

- ・実行可能な範囲内で回避・低減
- ・適正な環境保全についての配慮



調査・予測・評価の手法(海生植物)

■海域に生育する植物

◇造成等の施工(工事で発生する濁水の影響)

【調査手法】

- ・文献その他資料調査、現地調査
→海生植物(海藻草類)の生育状況等の把握

○調査項目、調査期間

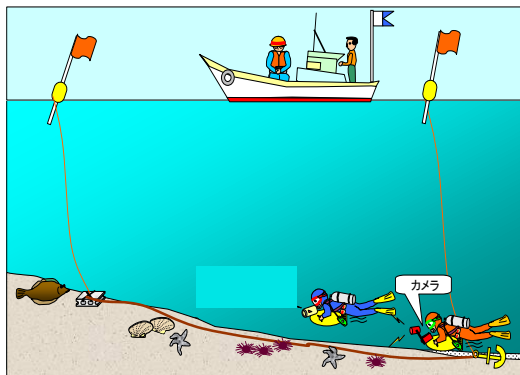
調査項目		調査期間
海藻草類	目視観察 (潜水土)	春、夏、秋、冬の4季 に各1回

【予測手法】

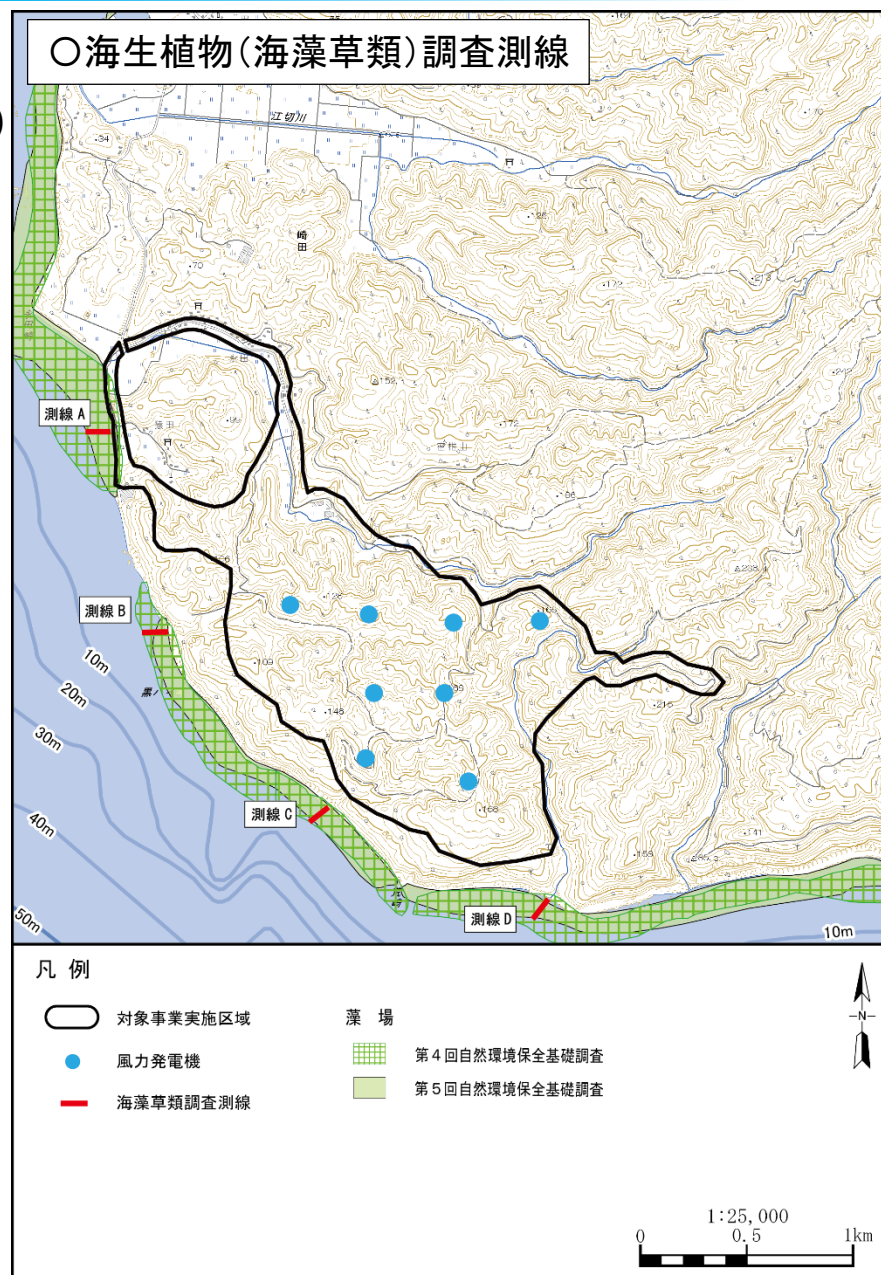
- ・重要な種等の生育環境等の変化について推定
→生育への影響

【評価手法】

- ・実行可能な範囲内で回避・低減
- ・適正な環境保全についての配慮



海域調査イメージ図



調査・予測・評価の手法(生態系)

■生態系

◇造成等の施工、地形改変等、施設の稼働

【調査手法】

- ・文献その他資料調査、現地調査
→動植物の生息・生育状況等の把握

○調査項目、調査期間

調査項目			調査期間
上位性: テン	生息環境 調査	フィールドサ イン調査	春、夏、秋、 冬の4季
	餌資源量 調査	糞のDNA 解析等	
典型性: ニホンア ナグマ	生息環境 調査	フィールドサ イン調査	
	餌資源量 調査	糞のDNA 解析等	

【予測手法】

- ・生態系の上位種、典型的な種等の生息環境等の
変化について推定→生態系への影響

【評価手法】

- ・実行可能な範囲内で回避・低減
- ・適正な環境保全についての配慮



調査・予測・評価の手法(景観)

■景観

◇地形改変及び施設の存在

【調査手法】

- ・文献その他資料調査、現地調査
→眺望点、景観資源、眺望景観の把握

○調査項目、調査期間

調査項目		調査期間
眺望景観	写真撮影	晴天日に1回

○調査地点

調査項目	調査期間
主要な眺望点	第2 高畑山市民いこいの森公園、串間市総合運動公園(展望休憩所)、高松海水浴場、福島川河川歴史公園、串間温泉 いこいの里、フィールドミュージアム幸島公園、恋ヶ浦海岸、小崎鼻、小松ヶ丘広場、都井岬灯台
身近な眺望点	永田地区

【予測手法】

- ・主要な眺望点と事業区域との位置関係
→景観資源と事業区域との位置関係
- ・眺望点からの垂直見込み角の算出
- ・フォトモンタージュ写真の作成

【評価手法】

- ・実行可能な範囲内で回避・低減
- ・適正な環境保全についての配慮



調査・予測・評価の手法（廃棄物等）

■ 廃棄物及び残土

◇ 造成等の施工による一時的な影響

【予測・評価手法】

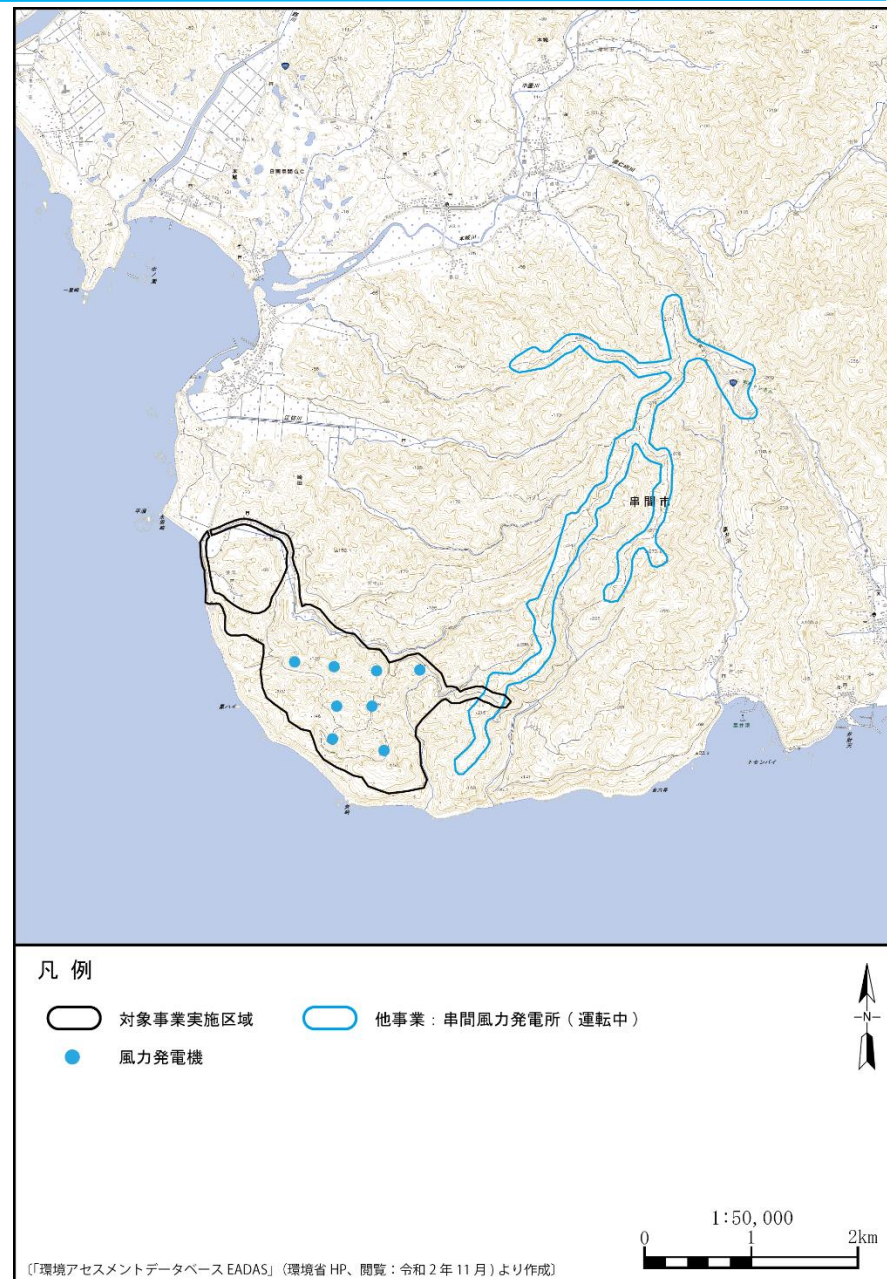
・環境保全措置を踏まえ、工事計画の整理により産業廃棄物及び残土の発生量を予測・評価する。

項 目	予測手法	評価手法
産業廃棄物	工事の実施に伴い発生する産業廃棄物の種類ごとの発生量、有効利用量及び最終処分量	・実行可能な範囲内で回避・低減 ・適正な環境保全についての配慮 ・廃掃法・建設リサイクル法との整合
残土	工事の実施に伴い発生する残土の発生量、再利用量及び処分量	・実行可能な範囲内で回避・低減 ・適正な環境保全についての配慮

調査・予測・評価の手法(累積的な影響)

■ 累積的な影響

累積的な影響については環境影響を受けるおそれのある対象事業実施区域周辺における他事業を対象とし、騒音、風車の影、鳥類及び景観について、調査、予測及び評価を実施する。



説明項目

1. 会社概要
2. 環境影響評価方法書の手続きについて
3. 対象事業内容
4. 対象事業実施区域及びその周辺の概要
5. 環境影響評価の項目及び調査・予測・評価の手法
6. 方法書の縦覧場所・意見書の提出について

方法書の縦覧場所・意見書の提出について

■方法書の縦覧場所

縦覧場所: 宮崎県庁環境森林部環境管理課

串間市役所総合政策課、串間市役所本城支所

縦覧期間: 令和3年1月21日(木)から令和3年2月22日(月)まで

縦覧時間: 土・日・祝日除く9時～17時

電子縦覧: <http://windyltd.xyz>

■意見書の提出について

「環境影響評価方法書」について環境保全の見地からご意見をお持ちの方は、縦覧場所に備え付けの意見書箱にご投函くださるか、下記の問合せ先までご郵送願います。

提出期限: 令和3年1月21日(木)から令和3年3月8日(月)まで(当日消印有効)

問合せ先: 〒805-0025 福岡県北九州市八幡東区中尾1丁目13-21

有限会社ウィンディ 環境影響評価担当

電話 : 093-651-9199

ご清聴ありがとうございました。